

- 加藤亮助 (1982) ボゴールとクブナラヤ —ボゴール植物園案内概要一、熱帯林業 (64) : 18-26.
- Kunii, H. and Aramaki, M. (1992) Annual net production and life span of floating-leaves in *Nymphaea tetragona* Georgi: a comparison with other floating leaved macrophytes. Hydrobiologia 242 : 185-193.
- 中本信忠 (1991) インドネシアの水を守る. 国際協力 (441) : 40-43.
- Prance, G. T. and Arias, J.R. (1975) A study of the floral biology of *Victoria amazonica* (Poepp.) Sowerby (Nymphaeaceae). Acta Amazonica 5 (2) : 109-139.
- Tsuchiya, T. (1991) Leaf life span of floating leaved plants. Vegetatio 97 : 149-160.

国際シンポジウム参加記追録

國井秀伸

水草研究会報49号に、フロリダで開かれた水生植物の生態と管理に関する国際シンポジウムへの参加記を掲載しました。これに関して先日、事務局の角野さんを通じ、会員の三島次郎先生からの手紙を頂戴しました。その手紙は参加記の一部に誤記のあることを指摘する貴重なものでしたので、以下に関係する部分を文面そのままに載せ、その後で若干の内容の補充をさせてもらうことにしました。

「4頁の左側下から11行目に『日本ではエアープラントと呼ばれて売られているランの仲間やサルオガセの仲間が多く着生していた』とありますが、着生のエアープラントとして日本で売られているのは、主に *Tillandsia* 属 (パイナップル科) のもので、ランの仲間ではありません。またフロリダのエバグレースの着生植物の主体はこの属のものですが、ご指摘通り *Epidendrum* 属 (多分) をはじめいくつかの着生ランもあります。

また、サルオガセの仲間としたものは、アメリカ南部に多いパイナップル科の Spanish moss (*Tillandsia usneoides*) と思います。

ジョージア大学の総合調査に参加して、フロリダ南部の湿地帯に何回か足を運んだことがあり、懐かしく拝読させていただきました。何かのお役に立てばと思い記憶を辿ってお手紙させていただきました。

なお、アリゲーターは時間と場所が良ければ、多数個

体を容易に観察することが出来ます。」

地上の植物の表面や空中に露出している岩石などに着生し、水分や養分を空気中の水蒸気や雨水に依存している植物を、分類群とは無関係に、エアープラントと呼んでいます。日本のデパートなどで売られているものは、私が見ている限りでも確かにパイナップル科の植物でランの仲間ではありません。現地 (エバグレース国立公園) では、パイナップル科の植物はもちろんのこと、着生ランもよく見られました。蛇足になりますが、エアープラントは寄生しているわけでは無いので、着生している母植物には悪い影響を与えないと言われています。

次に、サルオガセの仲間としたものについてですが、これも三島先生のご指摘通り、パイナップル科のスパニッシュモスで間違いないようです。この植物は、北アメリカ南部から南アメリカにかけて広く分布し、根が退化した気生植物で、外観が地衣類のサルオガセに似ているところから「サルオガセモドキ」という和名がついています。種小名は、サルオガセの学名、*Usnea longissima* Ach.、に由来していて、「サルオガセに似た」という意味です。

以上、三島先生のご指摘を受け、参考資料など見ながら綴ってみました。そこで、会報49号の問題となった箇所は、次のように直していただければ幸いです。「…その植物体には、ラン科の植物や日本ではエアープラントと呼ばれて売られているパイナップル科の植物、そしてサルオガセによく似たサルオガセモドキが多く着生していた。」